

広報広聴常任委員会会議録

- 1 日 時 平成30年5月2日(水)
10時00分開会 10時55分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：北村光明 副委員長：大谷昭宣
委員：佐藤幸一、原 紀夫、口田邦男、中島里司
議長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学、主任：鵜田瑞恵
- 5 説明員 なし
- 6 議 件
 - (1) 議会だより第153号の発行について
 - (2) 議会だより紙面構成の見直しについて
 - (3) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

委員長（北村光明）：広報広聴常任委員会を開催する。今日は議件として2題。議会だより153号の発行についてと、今後の協議課題だと思うが紙面構成の見直しについて協議していく。

議件（1）議会だより第153号の発行について

委員長：1番目の議件、議会だより153号の発行について、紙面構成等の案ができていますので事務局から説明をお願いします。

鶴田主任：（議会だより153号の紙面構成、内容説明）

委員長：今事務局より報告説明あったことについて協議したいが、もう少し目を通すための時間確保のために休憩する。

【休憩 10:09】

【再開 10:16】

委員長：休憩を終えて再開する。協議を続ける。事務局から説明があったこの原稿案でよろしいかどうか。特段何か意見や質疑などあるか。

（なしという声あり）

委員長：このままで良いということで決める。

議件（2）議会だよりの紙面構成の見直しについて

委員長：議件の2番目、議会だよりの紙面構成の見直しについての議題に入る。今回はこれまでの作り方をほぼ踏襲したかたち。議会活性化特別委員会の中では、速やかに出すとか、もっとわかりやすいよという話があった。町民の声を載せてはいかがかという声もあった。これについては予算の関係もあると思う。今任期中に大きく変えることは多少困難な部分はあるかと思うが、この広報広聴常任委員会で今後に向けてどのように協議していったらよいか。特段何か思いがあれば、意見を述べていただきたい。事務局のほうから昨年の議会広報研修会の資料と利府町の議会だよりが資料として提出されている。さっと見て、利府町だと写真が大きいとか、目に映るものがある。こういったものがいいかどうかを協議していくのに何か特段の提案や意見はあるか。

大谷委員：利府町のものは、書いてあるとおりぱっと見て「これ見たいな」と思う。写真が多く掲載されている。今までのものも読む人は読んでいると思う。今まで見ていない人に見てもらおうようにするには、ぱっと見て、写真がいっぱいであれば目を通そうかなという気になる。今までどおりでも問題なく報告することはしている。予算のこともあるが、今まで見ていない人の目に留まるような議会だよりになればいいと思う。ほかの参考資料がいろいろあるだろうが、こういうものができたら理想的。写真が多

いとかカラーにするとか目に留まるようなものをできればと思う。そしてこういうことをやるのにどれくらい予算がかかるのか。カラーにするのとか1頁増やすことによってどれくらいかかるのかというのを試算したりしたらどうか。

委員長 : 今、大谷委員から出されたことについて、関連することなりほかの意見でもよいが何かあるか。

原委員 : この利府町の議会だよりを見ると、見た瞬間「ん」と思わせるような紙面が数多くある。いかんせんうちの議会は10頁で作っているので、写真も小さくなる。より多くの資料を入れるということになると大変苦勞する。毎回同じパターンで議会の終わる後に出しているものだから、ほぼ同じかたち以外無いはず。それで、今後の議会だよりを作る方向として予算をどのくらいかけるのか。例えば人口1万人クラスの他町村の広報紙はだいたい何頁くらいで作っているのか等を含めて、今後の広報委員会の中ではそういうところも若干検討していいのではないか。利府町は38頁で、うちの4倍の頁数。それだけあれば相当なものを書ける。担当者は何人かわからないが、これだけのものを作るとなると大変な努力もいるだろう。そういうところは今後しっかり検討すべき。

委員長 : ほかにあるか。

口田委員 : 今お二方がいろいろなことを言ったが、そのとおり。やはりうちの例として、見るからにこちゃこちゃしていてなかなか読む気になれないというのが根源ではないか。一方利府町のもは字も大きくて写真も多くて見やすいというのが本音である。予算があればどんなことでもできると思うが、限られた予算の中で多くのことを皆さんに知らせるとなればうちでやっているこれしかないのではないか。次に向けてどういうかたちが良いか。また予算がどの程度必要なのかという面を研究し合うということに尽きるのではないか。

委員長 : 今3人の委員から意見が出されたが、続けて何かご意見はあるか。そうではないという意見はないか。

原委員 : 事務局にお尋ねしたい。今回1番後ろの頁は全部議会報告会と町民との意見交換会の記事に使っている。このスペースを使うことによって今まで作っていた広報紙の中で入れていたもののうち、外したもので大きなものというところのようなものがあるか。

鴫田主任 : 今回特に大きく外したものはない。9頁で少し行間が狭くなったりはしている。もし10頁が無かった場合はもう少し間に写真などを入れることができたかと思う。

中島委員 : 全国コンクールで優良賞をもらっている利府町のを参考に見せてもらったが、大変素晴らしい。私なりに見ていてうらやましく思っている。利府町というのは、平成25年度にお邪魔している町。災害で仙台市からのベッドタウンに変わった。うらやましいと思える部分として、人口がどんどん増えていて、町づくりに対しての思いというか勢いがある町だという印象を強くして帰ってきた。やはりよそから入ってきて人口も増えてきているから、こういう対応をしなければということで、そういう部分では非常にかみ合っておりここまで作られているのかとうらやましく思っている。ただ、思いと町の事情というのはそれぞれ若干ずれがある。必要であれば、頁数も執行側と予算の打ち合わせをしていけばいいと思うが、頁数を増やすかどうかではなくて、中身について協議したほうがいいのかということ。今回発行する議会だよりの編集後記に書かれている文面を見ても、やはり根底にあるのは町民が関心を持ってもらうものにならなければならないということ。要するに、親しみのある議会だより、イコール読

んでみたい、見てみたいというものであろうと。それを目指していけば、頁数の増減は後からついてくるもの。それからいくと、委員長が今日ここで答えを求めているとは思っていないが、私達に与えられた任期は決して長くない。研修あるいはいろいろなことを学びながらこの任期中にしっかりした方向性を出していく。先ほど議会活性化特別委員会云々とあったが、私は議会活性化特別委員会で協議されたものはあまり関係ないと思っている。それは正式なものではないから。ただその中で出た意見というのは尊重して、どう捉えるかというのもこの委員会の中での答えだと思っている。あくまでも広報広聴常任委員会の中で判断をする。そのためには少し学ぶ時間があってもいいかと。頁数を増やすだけというのではなくて、ある程度のをしぼって段階的に協議をしてまとめていかなければ、任期中で方向性を示すのは無理なのかと。一つの意見になるようなまとめ方をしていかなければならない。

佐藤局長：配付資料について説明する。1つは、昨年度の議会広報研修会の資料。ちょうど昨年改選になって、今の議会運営委員会のメンバーが研修会に行っているの、皆さんが見るのは初めてだと思う。それを今回コピーして配付した。最近道議長会の研修会もクリニックを重点的に行っていて、いろいろなコメントも入っているので、参考になるかと思う。講師の先生も全国的に有名な方だと思う。もう1つ配付した資料は宮城県利府町の議会だより。平成25年に大郷町に視察に行った際に、隣町の利府町も清水町の議会に視察した。その当時から利府町は議会広報紙では全国的に有名な所。現状としては全国コンクールで6年連続ベスト10入り、平成28年度は全国1位、昨年度は6位。ずっとベスト10に入っているような所。少し頁数も多くて写真も大きくてとても見やすい広報紙を作っている。清水町とも少し関係があるので利府町の部分をコピーした。利府町議会の議長は現在、全国町村議長会会長もやられている。議員控え室のほうには他町の例として、芽室町、栗山町、宮城県大郷町、静岡県清水町から送ってきていただいている最近の議会広報紙を綴ってある。それらも参考にしていたらと思う。

委員長：中島委員の意見と事務局の話を受けて、何か意見はあるか。中島委員の話にもあったが、多少委員たちが勉強しなくては、現時点では方向性を確定できないという状況もある。今後の研修も含め、個々の委員としてどうあるべきかを考える時間も必要かと思う。何か意見はあるか。

口田委員：この議会広報研修会は毎年あるものか。

佐藤局長：毎年やっている。

口田委員：今年度は率先して行かなくてはならない。

佐藤局長：予算は計上している。

委員長：研修会となると時期的には8月くらいになるのか。

佐藤局長：議会広報研修会は、全国議長会でも研修会はやっている。清水町議会としては、今まで議会運営委員会が所管していた時には道議長会の広報研修会に隔年で行っていた。委員の任期が2年ということで、議会運営委員会の委員が改選された年に予算を計上して道議長会の広報研修会に今まで参加していたということ。昨年は議会運営委員会で行ったが、今年は広報広聴常任委員会が設置されたということで、新年度予算でその分は計上している。常任委員会の関係としては、総務産業や厚生文教の常任委員会については道内の視察を毎年1泊で計上しているが、広報広聴常任委員会の部分も1泊で予算計上している。

- 委員長 : 広報広聴常任委員会が設置されたので、町民もどう変わっていくか関心を持たれる。やはり委員会ができた以上それらしい成果も収めていく必要がある。予算の関係もあるかと思うが任期中といえども多少は変えていかないといけない。今後具体的なテーマを持ってあり方について協議していきたい。特に何かこれとこれだけは考えておくべきではないかという意見があったら出していただきたい。
- 原委員 : 平成 29 年度の研修会の資料を見てわかると思うが、トップページは全部一面が大きな写真。それでその下に若干文字を入れている。今後うちの議会のものもそれくらいから徐々に変えていったほうがいいのではないかと。後段に町民の声なりを入れるということも必要だろうと思う。
- 委員長 : 今原委員から意見が出されたが、ほかに意見はあるか。
- 大谷委員 : 原委員の意見に賛成。1 頁目にどんと写真を持つてくるというのは目に留まりやすく、すごく関心を持たれるのではないかと思う。1 頁にそういうかたちでもっていきのいいことだと思う。
- 委員長 : 1 頁目の表紙の部分から変えていくというのはいいことだという話があった。それは次回からと理解してよいか。そういった意見もあったがほかに何かないか。
- 中島委員 : 確かに資料の 1 頁目をざっと見ていると、写真と主要なものの頁数を入れるとか、写真がメインになっているものが多い。写真をどうするかというのも、ある程度事前に事務局もだが議員も何か気が付いたところあったらという部分であってもいいのかと。ただ大きく写真を載せればいいというものではなくて、そこを惹きつけるものをどう見つけるか。資料を見てみると、議題の内容ではなく人を写している。その辺も含めて今後検討してもいいのではないかと。
- 委員長 : 今中島委員から意見があったが、写真を大きくするなり入れるということになれば、どういったものか。町民の顔が写るような、人を載せるというようなことも含めて考えていくとしたら、それなりのことを委員としても心がけていただきたいということだと思うが。
- 口田委員 : 皆を惹きつけるのは子どもの写真。表にどんと、子どもを主とした写真を掲載すると見てみようかという気になると思う。
- 原委員 : 去年植樹祭があり参加したが、子どもがけっこういた。最後に植樹が終わってから集合写真を撮った。その時に広報担当が来ていなくて代理が来て写真を撮った。町の広報紙の表紙に使うように言ってほしいと言ったが全然実現しなかった。子どもの写真は一番魅力があるものだと私も思う。
- 委員長 : 今原委員から意見があったように魅力ある写真を載せるということで大体賛同する意見が得られると思うので今後考えていきたい。場合によっては委員のほうから写真を撮るとか、こういう写真がいいとかそういうことも出してもらえればよい。写真は誰が撮るのかということにもなる。
- 原委員 : 町の広報紙を作っている担当者は相当苦労して写真をあちこちで撮っている。例えばそういうものを上手く活用するという方法もいいのではないかと。
- 委員長 : 町の広報を担当している人の写真を利用させてもらうという意見もあるが、いかがか。
- 口田委員 : 委員長は特に写真が好きでいろいろな所の写真を撮られている。今度は堂々と撮ってもいいのではないかと。
- 委員長 : 今後表紙に大きく写真を載せるということで、子どもという話もあったが目を惹くようなものを検討していくということで進めていきたい。今日のところは今後の研修を

含めて、それぞれの中で今後どうしていくかを考え、次回の委員会で何点かに分けてどういったものを載せていくかという協議をしていきたい。スケジュール的にはどうするか。

中島委員：スケジュール的なものというのは研修をすべき項目があるかどうかを検討することか。委員会ができたばかりだから項目はたくさんあると思うが。それをある程度踏まえて研修に行かせてもらうとか、そういうことをしなければならない。研修に行くという前提ではないが、行くとすればどこで研修させてもらうか。任期はそんなにない。議会だより 154 号は 8 月に発行だから、間に合えばそこに持っていこうという考え方になるかと思う。写真で表紙一面を取っても、ページ数は既存の中でやりくりをして、それでだめなら次のことを考えればいい。これについても研修が伴ってその中で学び取ってくることだろうと思う。研修も今行けるわけではない。6 月の定例会で申入れしてからのこと。それまでに、今月中に日程的にどういうことをやっていくかということはある程度まとめなければならない。今までの議会運営委員会で開いていた広報関係の会議については、流れからいくと次はいつ頃になるのか。

佐藤局長：今までの流れとしては、議会運営委員会で担当している時には 1 回の広報紙を発行するのに 2 回の委員会を開いているのみ。広報発行で年間 8 回開催している。定例会の翌月に 1 回目の広報に関する委員会を開いて、発行する月の上旬とか、前月の下旬くらいにこの最終案を協議していた。今までの流れからいくと、次の委員会は定例会後の 7 月になってしまう。ただ、今協議している議会だよりの紙面構成の見直しについては、この常任委員会の中である程度方向性を決めなくてはならない。事務局としては、その紙面構成の見直しの部分で、広報広聴常任委員会を結構開催していかなければならないと予算の時から考えている。

中島委員：今までどおりの日程では協議する時間がないということを申し上げたかった。紙面構成について、表紙に大きく写真を入れることは決まったが、後々のことを考えたらどうしていくかという部分も含めて定期的に先に話し合っていくのか。きっかけをもらうためにどこかの話を聞いて、それを参考にして揉みながら町のものを目指していくのか。ある程度のもを持った上で視察に行くのか。その辺の段取りについては、ここで全員で話しても致し方ないので、一任とは言わないが委員長がある程度案を示していただければと。もちろん事務局、副委員長も含めてであるが。ある程度案を次回示してもらって限られた期間の中で一定の方向性を示してバトンタッチできればいいかと個人的には思っている。その辺ご足労願いたい。

委員長：何らかの研修なり視察なりで見てくるとして、委員長と副委員長、それから事務局と検討させてもらって次の持っていく方について決めていきたいということによろしいか。

(よろしいの声あり)

委員長：日程的には今月中にもう一回やるか、6 月になるかということになる。先に行くということになれば、大分遅れると思う。

口田委員：相手のあることだから事務局と相談してもらいながら進めてもらえばよい。

委員長：では次回の日程については研修先のこともあるので、事務局と委員長・副委員長、議長の意見も聞きながら決めていきたいと思うがよろしいか。

(よろしいの声あり)

委員長：そのほかこの常任委員会の中でお話すること、協議することはあるか。

(なしという声あり)

委員長　：以上で広報広聴常任委員会を終了する。